

三小だより

7月号

粘り強く、根気よく

校長 藤本 賀津雄

学校では、今日から水泳指導が始まりました。子どもたちの元気な声や水しぶきの音がプールから聞こえてきます。暑い日にはプールの水が気持ちよく、基本的に子どもたちは水遊びが大好きです。しかし、泳げるようになろうと思ったら練習が必要です。みんな頑張って練習して、上手に泳げるようになってほしいと思います。

さて現在、4、5、6年生の算数では、習熟度別指導など少人数での指導やチームティーチングといった複数の指導者による指導など、指導法の工夫・改善を図っています。特に少人数の学習では挙手や発言の機会が増えたり、先生にいていねいに見てもらえたりするので、授業が分かりやすいという声が多いようです。どの子も頑張って基礎的・基本的な学力を身につけ、しっかり考える人になってほしいと願っています。

ところで、水泳などの運動面でも、算数などの学習面でも、できないからといってすぐにあきらめてしまうのではなく、何とかできるようになりたいという気持ちをもって粘り強く、根気よく最後まで取り組んでほしいと思っています。誰にでも経験があると思いますが、逆上がりができるようになった時のことや自転車に乗れるようになった時のことを思い出してみてください。何回も失敗しては挑戦する繰り返しですが、ある日、突然できるようになるものです。失敗を重ねるうちに、体が自然とコツを覚えてしまうのです。しかも一度コツを覚えてしまうと、やろうと思えばいつでもまたできるものです。一方、学習面では、計算や漢字の練習はとても面倒くさいものだという意識がありま

$$\begin{array}{r} 12 \\ \times 34 \\ \hline 408 \end{array}$$



すが、繰り返し練習することで、自然に早く正しくできるようになっていきます。いつの間にかそれらの練習が苦にならなくなり、面白いなとさえ感じるようになっていきます。

運動面でも学習面でも、挑戦し始めるときはうまくいかず面白くないものです。でも、粘り強く、根気よく取り組んでいくうちにできるようになっていきます。要は、途中であきらめて投げ出してしまうか、粘り強く、根気よく続けるかの違いです。そこで大事ななのが、周囲のほめ言葉や励ましです。学校ではできるだけ子

どもたちの頑張りや良さを見つけ出し、ほめて自尊心を高める取り組みをしています。ご家庭でも、やって当たり前のことでも「えらかったね」「よくがんばったね」と声をかけてやってください。きっと子どもたちの意欲や忍耐力につながると思います。

